

COMPASS

[コンパス]

中小企業のIT活用情報をわかりやすく紹介

Autumn 2020 秋

特集

「新しい日常」へ、 切り替える

いよいよデジタルが経営基盤に



経営目線でのテレワーク

- 利用中の困ったを丸ごと相談
- できる! 総務・経理の在宅勤務
- 今、購入したいプリンター

トピックス

FOCUS

町内移動の課題にAIが貢献
鹿児島県肝付町の取り組み

compass: 羅針盤(儀)=指針・方向性
<https://www.compass-it.jp/>

COMPASS [コンパス] 2020年秋号
令和2年8月31日発行

株式会社 リックテック

TEL: 03-3834-8059

発行人: 土岡正純

編集人: 石原由美子

頒布価格: 本体360円+税

IT活用に関する「困った」を解決する専門家がいます。

ITコーディネータに ご相談ください

ITコーディネータとは、経営者と対話しながら、経営戦略のなかでITをどのように活用するかを経営者とともに考えるプロフェッショナル。経済産業省推進資格です。



例えば、こんな相談に対応できます



社会の変化への対応

- 改革したいがどこから手をつけたらよいのだろう
- テレワークなど新しい取り組みをしたい



業務とIT/IoTの問題

- 受発注や入出金の管理をもっと効率化したい
- リピータを増やす仕組みを作りたい



ホームページ活用

- どうやって作るのがよいのか
- アクセスが増えずに困っている

ITに関する
補助金の活用も
ご相談ください

直接のお問い合わせはもちろん、
支援機関にご相談の際に、
「ITコーディネータの方はいますか」と
是非聞いてください。

お問い合わせ先



特定非営利活動法人 ITコーディネータ協会

〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-17-8 浜町平和ビル7階

<https://www.itc.or.jp/>

TEL: 03-3527-2177

CONTENTS

特集

2 「新しい日常」へ、切り替える ——いよいよデジタルが経営基盤に

寄稿 堀明人氏

環境変化にチャンスを見出す！ リーダーに求められる「デジタル」への感度
●スマホで使える店舗向けサービス

事例① 熊本県 旅館業 蘇山郷
「旅館の常識」から発想を転換 IT導入で働きやすさも向上

事例② 広島県 介護サービス業 親和
その人らしさを皆が大切に 地域に溶け込み共生する介護

経営戦略としてのテレワーク・クラウド活用

対応ツール①

在宅ワークでほしいプリンターとは？
使い勝手に優れ、仕事の手を止めないものを

対応ツール②

「ニューノーマルな働き方」に踏み出し成果をあげる
テレワーク環境の上手な導入・運用方法とは

対応ツール③

在宅勤務を阻む4つの障壁を乗り越え
“テレ経理・テレ総務”を実現しよう

AIが支える地域サービス 鹿児島県肝付町
バスより柔軟、タクシーより安価 高齢者の活動範囲を広げる仕掛けとは？

寄稿 最新技術動向
製造業とAI（人工知能）
クロスコンパス 社長 鈴木克信氏

エッセイ 世中渉「あいていのある職場日記」



本書刊行後、海外の名だたる企業へ組子を提供
東京・大手町の経団連会館4Fの大型組子は必見
経営者は困難に直面し、何を決断したのか

好評
販売中

谷端信夫 株式会社タニハタ
代表取締役社長

世界に響け 職人の心意気

中小企業の
生き方が
ここにある

大きな危機を乗り越え、一度は消えかかった
伝統工芸「組子欄間」を復活させ
新たな販路を開いた、
富山の小さな組子メーカー・タニハタ。

失敗や苦悩、希望と気概を
経営者が正直に綴った書。

目次	第一章	職人の仕事ぶりは「音」でわかる
	第二章	和から洋へ——組子を残すための決断
	第三章	背水の陣で臨んだインターネット
	第四章	追い詰められたものづくりの現場
	第五章	今こそ「和」を取り戻す
	第六章	ネット時代、中小企業が大切にしたいもの
	第七章	海を越える！ 職人魂

読者の感想から

著者の半生を追体験しながら、時代の変化の中で自分は
会社とどう関わるか、何を大切にしたいのかを考えさせら
れた。「生きる力」を底上げしてくれる本。(会社員・女性)

こんなにも赤裸々に、「中小企業経営
者の気持ち」を綴ったモノガタリはない
と思います。本を読みながら何度も
エールを送りました。たくさんの経営者
に読んで欲しい。(経営者・男性)

必死で生業をくぐり抜けてこられた著者の「生存記録」である。小規模企業やホーム
ページで通販をしようとしている経営者に苦しい今を通り抜けるための覚悟の程と、
薄明かりの道を示した本である。(専門家・男性)

お求め・ご注文はお近くの書店・
アマゾン等ネット書店へお願いいたします。

四六判・216ページ
本体価格：1400円＋税 ISBN：978-4-89797-894-9

弊社に直接書籍をお申し込みの場合は、弊社Webサイトへお願い申し上げます。

株式会社 リックテレコム <http://www.ric.co.jp/>

“以前とまったく同じ生活様式には戻らない
だからこそ、今までにない戦略を打ち立てられる”

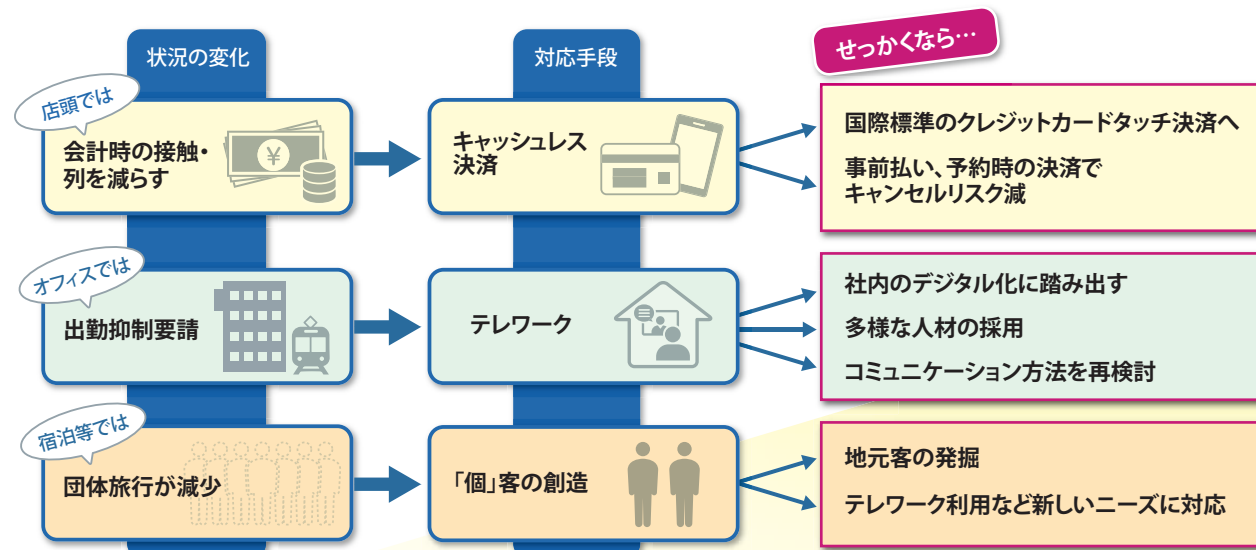
特集

「新しい日常」へ、切り替える

いよいよデジタルが
経営基盤に



「新しい日常」をきっかけに改革を(例)



経営に大きな効果を!

「新しい日常」への対応を
新しい経営につなげる

京都の観光地にあるカフェでは、メニューではなく、QRコードが印刷された1枚のカードが出てきた。顧客が自分のスマートフォンでコードを読み取りメニューにアクセスすることで、同じ紙のメニューを使いまわす不安を解消するものだ。

非接触対応が目的だが、ネット上のコンテンツにアクセスできることを活かし、会員登録を促し次の来店につなげる誘導も考えられる。

また、宿泊予約や飲食店での持ち帰り(テイクアウト)では、店頭での決済をなくし受付をスムーズにする「ネットでの事前払い」が推奨されている。この方式が定着すれば、店を悩ませていた無断キャンセルの減少が見込まれる。購買情報は顧客自ら入力してくれるのでデータ化しやすく、聞き間違いのミスもなくなるはずだ。

以前からの課題を「やむないデジタル化」をきっかけにクリア

できるかもしれない。

ITコーディネータの堀明人氏は、「業種や規模の大小を問わず、経営のデジタル化に真正面から向き合う時代になります。『デジタル経営』の巧拙はこれまでに以上に業績に影響を及ぼすでしょう」と分析する(詳細は4ページのコラム参照)。

顧客も働き手も、コロナ禍でIT活用への抵抗が以前より弱まっているのは追い風だ。

そして、コロナ禍では「地域」がもう一つのキーワードになる。人の移動が広域から近隣に変化していること、街の「密」具合や医療体制は一律でないことから、地域事情が経営に与える影響が増している。

この7、8月、世界各国から五輪客を迎えるはずだった都心のあるホテルでは、顧客の多くが東京市民に変わっていた。「東京へ・から」の移動が抑制される動きを受け、いち早く都民向けプランを打ち出したからだ。

「新しい日常」そのものに是非はない。刻々と変わる「日常」にどう向き合うか、である。

「人」と人の接触を控える」

——人と人のふれあいを商売の中核に据える会社にとって、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策は、驚愕の話だった。

物理的な工夫でしのいだり、サービス形態を変更したり、対応に手を取られるが、悪い事ばかりではない。

今、求められる「非接触・非対面」「自動」「セルフ」「遠隔」と

いったキーワードは、ITの活用で実現できるものが多々ある。社会が強く求める「新しい日常」は、デジタル化への要望でもあり、新しい競争環境をつくり出す。

アナログとデジタルのどちらが大切かの議論はもう終わり。デジタルを基盤として人がどう力を発揮し、顧客の支持を得るか。緊急対応策の一つひとつに次へのヒントがある。



3月まで「もうすぐ東京五輪」と沸いていた2020年の日本を激変させた新型コロナウイルス感染症。感染しない・感染させないために求められた生活様式は、猛スピードで社会のデジタル化を推進している。

店舗系ビジネスにおける「新しい日常」への対応は、スマートフォンがキーワード。まずは、決済の非接触化から。スマホを使ったコード決済が一気に普及してきたが、レジ担当と顧客が離れた状態でも決済でき、誰でも持っているのが、ICカード系のかざすタイプ（スマートフォンでも対応可能なものが多い）である。

顧客のクレジットカードは預からないのが鉄則。ICカード挿入口に自分で入れてもらうか、「タッチ決済」ができるようにしよう。

一方、複数店舗を持つ会社では、離れた場所にいる従業員の「心の変化」が見えにくい。簡単なアンケートで見える化するユニークなサービスも登場している。

ITツール例 ＜店舗系＞

スマートフォンをキーにした 「新しい日常」への対応

テイクアウトの注文を 顧客のスマホで

飲食店の非接触対応&業務効率化に役立つサービスを提供する Showcase Gig（ショーケース・ギグ）では、テイクアウト品のモバイルオーダーを手軽に導入できる「O:der ToGo」を提供している。

SNSやグーグルマップなど多様な経路からオーダーの受付が可能だ。



*画面画像は同サイトより

「O:der ToGo」
<https://business.oderapp.jp/lp/togo/>

Airペイがクレジットカード 「タッチ決済」に対応

タッチ決済は顧客のクレジットカードを預からなくてよい「非接触方式」だ。対応済の「Square」に続き、「Airペイ」が2020年秋からのクレジットカードタッチ決済対応を表明した。

これにより、町の店舗でも対応端末が増える。国際標準のNFCなので、いずれ戻る訪日外国人への対応にもなる。

タッチ決済のイメージ。（Airペイの端末ではありません）スマートフォンでもタッチ対応できる端末が増えている



近くにいないスタッフの心の変化を知り 「わかったときには離職…」を防ぐ

複数店舗、チェーン店を運営する企業では従業員の心の変化をつかむのが難しく、気づいたときには退職届が目の前に…という悲劇も起こりうる。

そこでLINEを用いた簡単なアンケート方式で働く人の心の変化を可視化すべく開発されたのが「MIND WEATHER」(マインドウェザー)である。

LINEにアンケートが届くので、社内メールがなくても、ITリテラシーが高くなくてもOK。

状況を素早く見える化し、改善に活かし離職減につなげることができる。洋服のお直し事業を多店舗展開するビック・ママが自らの課題をもとに開発した。

「MIND WEATHER」
<https://mind-weather.com/>



*画面画像は同サイトより

店頭のメニューを 簡単にQRコード化

USENは、メニューブックをQRコードへ変換して、顧客のスマートフォンに表示可能とする「USEN My Menu」を、レストランなどに無料で提供する。

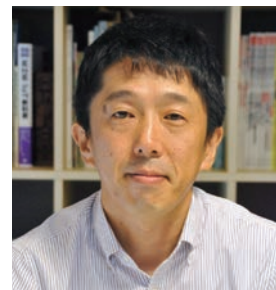
また、同社は顧客のスマートフォンから直接注文できる「Uレジ Mobile Order」をすでに提供中である。

ニュースリリース
<https://usen-next.co.jp/newsrelease/2020/06/usen-my-menu.html>



寄稿

環境変化にチャンスを見出す！ リーダーに求められる「デジタル」への感度



＜執筆＞堀 明人氏
株式会社トゥモローズ 代表取締役
一般社団法人日本農業情報システム協会 専務理事

Profile
情報通信業界において情シス・マーケティング・営業と一貫して企画畑を歩む。英国勤務時代に自分らしく生きる英国人のライフスタイルに強く共感し2007年に独立。中小ビジネスのデジタル化のサポート、観光農園の経営、業界団体の運営など多分野で精力的に活動中。経済産業省推奨資格 ITコーディネータ 一般財団法人日本GAP協会 JGAP指導員補

「中 小ビジネスもDX（デジタル・トランスフォーメーション）に取り組むべきである」とと声高に叫ばずとも、す

でに各社は動き始めているようです。

筆者の支援先である製造業では、今年の経営目標にAI活用を掲げ、全社をあげた取り組みを進めています。

他にも、人海戦術に頼りがちな仕事を要素分解して、ITによるオートメーション化を進めている産廃業や、スタッフの離職リスク削減のためのヒューマンマネジメントのアプリを独自開発しているサービス業、残業削減のためにIT活用と業務改善を推進している建設業、限界集落の存亡をかけてスマート農業に取り組み始めた中山間地の農業者など、全国各地の企業が「デジタル経営」に挑戦しています。

原動力は人材への危機感

人口増の時代が終焉を迎えたいま、人材が無尽蔵であるかのように錯覚し、人材を消費するだけの職場はもはや持続不可能です。働き手に選んでももらえる職場、心身ともに健康に働き続けられる職場へ。人材という経営資源が重要

な役割を果たすからこそ、リーダーは潮流の変化を敏感に感じ取っているのでしょうか。

〈取り組みの例〉

- ・カラダの負担の高い仕事はロボットや自動処理で代替しよう
- ・コロナの負担の高い仕事に従事しているスタッフを支え、サポートできるシステムを整備しよう
- ・手間ひまをかける価値のある仕事だからこそ、自社ならではの効率的な仕組みを整え、働きやすく生産性の高い職場をつくらう
- ・地域を支えてきたベテランの経験、勘、ノウハウが雲霧消してしまわないように、知恵を共有し、形式知化して継承しよう

素早く見極め、着手する

裏を返せば、このようなデジタル化で、一人の人材の貢献度が高くなり、いきいきと活躍できれば会社の成長に直結します。環境変化の中にむしろチャンスを感じ取り、10年先を見据えて会社の強化、スリム化、スピード化、働きやすさへ、デジタルへの投資を進めています。

これからは、業種や規模の大小問わず、経営のデジタル化に真正面から向き合う時代になります。「デジタル経営」の巧拙はこれまでに以上に業績に影響を及ぼすでしょう。

大切なことは、自社に必要なデジタル化のポイントを素早く見極め、着手すること。時間をかければ正解が得られるわけではありません。未知の人口減少社会ですから、前に進みながら最適解を見出していきたいと思います。

今年は終戦から75年です。その75年前には明治維新が起きています。明治維新で江戸期からの秩序と価値観がゼロリセットされ、75年後に大日本帝国という近代日本の秩序と価値観が再びゼロリセット。そこから75年後の2020年、コロナ禍はこれまで当たり前と思っていた常識や習慣、ルール、行動様式や価値観が普遍の真理ではなかったことを白日の下にさらしました。

図らずも干支は庚子（かのえね）。新しい生命力が創造される年まわりだそうです。

＜地域とともに＞ 前進へのIT活用

事例①



夕食には熊本のあか牛も(右)。焼酎バーは書斎のように落ち着く空間、昼間は珈琲も飲める(下)。



代表社員 館主
永田祐介氏



町の散策が面白い——熊本県阿蘇市・内牧温泉に到着して感じたことだ。昭和をイメージした商店、個性的な飲食店、雄大な阿蘇山を望む広い視界、フレンドリーな地域バス。気ままに自由に過ごせそうだ。

この印象は、実は街が意識して取り組んできた結果だと、温泉旅館・蘇山郷で話を聞いてわかった。

二度の災害を乗り越え「個客」に選ばれる街へ

蘇山郷は、与謝野鉄幹・晶子宿泊の宿としても知られる、22室の旅館。まもなく創業70年を迎える。

三代目館主の永田祐介氏は、社会人になって4年目に旅館の経営が窮地にあることを知り、事業を継ぐ決意をした。コスト削減の一方で積極的な投資も行い改革が実を結んできたさなか、九州北部豪雨、そして熊本地震と災害に見舞われる。

「旅館の常識」から発想を転換 IT導入で働きやすさも向上

熊本県阿蘇市 **旅館業・蘇山郷**（そざんきょう）

会社概要

合資会社 蘇山郷

熊本県阿蘇市内牧145-1
●創業：1951年
●従業員数：約30人
●事業内容：温泉旅館(22室)
●URL：http://www.sozankyo.jp

いう旅館の常識」からの脱却を志向した。

「長期滞在していただくには、まず泊食分離です。地域の飲食店とビジョンを共有し、街中でも自由に飲食できる『ふらっと内牧』事業を展開してきました」

その取り組みの一つである飲食店紹介の「阿蘇内牧夕食グルメガイド」は5か国語で発信。クレジットカードが利用できる店も探せる。

蘇山郷自身は、ルーフトップバーや焼酎バーなど、ナイトタイムを自由に過ごせる飲食スペースの拡充、バリアフリー対応、そして、ITツールの導入と「次への投資」を行ってきた。

転記と伝達ミスをなくし スタッフの動きを効率化

宿泊業は、様々なルートから

入る予約情報をもとに部屋割を行い、フロントで扱う個人別の情報宿泊料金・前払い有無等、フロアスタッフが知っておくべき情報、夕食の情報などをそれぞれに伝達する。手書きで転記していたため、時間がかかりミスも出やすかったという。

者からの紹介で当社に合うものが見つかったのです。IT導入補助金もあり、導入に踏み切りました」と永田氏は振り返る。

2019年秋に宿泊業総合管理システム「支配人くんNEXT」を導入。ネットエージェントや自社サイトなどから届いた宿泊予約情報が、部屋割、当日のフロント表、調理場への料理提

供予定などに連動し、データ分析もできるツールだ。

予約内容に基づきシステムが自動で部屋を割り振るので、細部を調整すれば部屋割表が完成。フロントではパソコンで来館予定顧客の情報を確認できる。調理場には大きなモニターを設置し、宿泊者別の夕食メニューと予定時間、アレルギーなど注意事項をリアルタイムで確認可能とした。

夕食の配膳では、次の料理を出すタイミングをレストラン内から調理場へボタン一つで連絡する蘇山郷独自の仕組みを作り、人の移動を削減。4人必要だった配膳を3人で回せるようになった。

ITの導入に際し、当初、現場からは反発もあった。館主自ら使って見せ、慣れるにつれ便利さが実感されたという。

導入から数か月で、前年同時期と比べ残業時間を13%削減でき、生産性が上がっている。「宿泊業は人手不足。休暇を取りやすく働きやすい環境を作るには、

コロナ禍の状況は？

4月の売上は前年比1割まで落ち込み、休館した期間もありましたが、6月からは7割、8割と回復し7月の連休は満室でした。密でない環境をご存知のリピーターの方もよく来てくださいます。

発熱のお客様がいらしたときの対応マニュアルをいち早く整備し、感染対策は徹底して行っています。状況は刻々と変わり今後も波がありますが、目の前のお客様に喜んでお帰りいただくことに力を注いでいきます。(永田氏談)

業務の見直しによる生産性の向上が欠かせません」と永田氏は力を込める。

2020年春からのコロナ禍においては、ITによる業務の効率化で余力ができたスタッフが外注していた業務もこなし、経費削減を図れた。

厳しい環境の中ではあるが、2021年夏には新しい生活様式を意識したホテルをオープンする予定とのことだ。混乱期こそチャンスを見つけて攻める——経営者の気概が地域を牽引していく。

蘇山郷のIT活用による効果例

業務間をデータが連携し、効率アップ！



＜ITツール紹介＞ 「支配人くんNEXT」(クリップサイト)

ホテル・旅館の予約管理、会計、顧客管理を中心に業務をサポートする。調理モニターや清掃管理などオプションも豊富で、クラウド、社内サーバー運用のいずれも可。

ある旅館からの精算・会計システム依頼をきっかけにパッケージソフトを発売。ユーザーの要望を聞き改良を続け、2013年にリリースしたのが「支配人くんNEXT」である。

黒崎雄司社長は、「問い合わせを受けると、実際のデータをもってデモを行い、方向性を共有しています」と言う。使いこなすところまで気を配る姿勢が支持を集める。



株式会社クリップサイト
代表取締役
黒崎雄司氏

さくらホームがITに求めたもの



多くの情報をどう記録・共有するか

ITツールとタブレットで刻々と変わる情報を共有
(データベースの利便性とSNSのような速報性)



その日気づいたことは
タブレットですぐ入力

システムのサンプル画面 (利用者別の画面イメージ)

- 利用者別に探せる
- 画像もアップできる
- 知りたい項目別に検索できる
- 新しい情報は「タイムライン」に流し、皆で確認

< ITツール紹介 > 「N-SYSTEM」 (提供：NORTH HAND GROUP)

NORTH HAND GROUPは自身も介護事業に携わっている。「医療関係者との情報連携など、欲しい機能を持つ適正価格の介護向けITツールがなく、自社開発したのがN-SYSTEMのきっかけです」と営業部リーダーの永井宏樹氏は話す。

現場の情報を直感的な操作で記録・共有できることと、「使いこなせるまで現場サポートを行う」のが特徴だ。

さくらホームでは、「私たちが大切にしていることを理解して提案をいただき、一緒に成長できると感じました。必要な機能は追加していただき、ありがたい」と感想を話している。



NORTH HAND GROUP
営業部リーダー
永井宏樹氏

< サポーター紹介 >

IT導入補助金の申請にあたり、NORTH HAND GROUPからサポート依頼を受け、現状分析および事業計画とITツール活用による効果の関係を分析・整理した。さくらホームの次の取り組みについてもサポート予定という。

「IT導入はシステムの入替えなど目先の対応になりがちですが、さくらホームさんは、仕事の進め方をパワーアップするためにITを活用しています。筋が通ったIT導入と言えます」と分析している。



ブルーインIT経営研究所
ITコーディネータ
姫野三樹氏

コロナ禍の状況は？

例えば入浴介助などは「密」になりますが、介護はサービスを止めることができません。回数を減らす協力をいただいたり、サービス提供の場所を分けるなど工夫をしています。

当初は、少しでも安心して働けるよう、不足したマスクやアルコール消毒、ガウンなどの調達に力をいれました。今後は、職員が濃厚接触者に指定されたときに備えて、近隣施設との連携も必要と考えています。(羽田氏 談)

ではなく、現状を受け入れ、どう街の未来を創るかこそが大切なのである。

拡大できる基盤が整いました」と評している。

さくらホームでは、新しくゲストハウスの運営も始めた。「地域密着は変わらないまま、働く場の創出、変化に沿った事業展開をしてきたい。次は、スタッフの増加にともない人事分野でのITツール活用を考えています」と羽田氏は抱負を語る。

街の高齢化は悲観すべきこと

HAND GROUPだった。

同社の「N・SYSTEM」(クラウド型)をカスタマイズして2019年に導入。同年のIT導入補助金にも採択された。情報の活用は、15台のタブレットで行っている。

「タイムライン」で表示されるので見やすく、日々の介護サービスに活かされている。

また、介護現場ですぐに入力できるようになったことで、情報共有にかかる時間を月あたり約300時間削減できた。

IT導入補助金の申請支援を行ったITコーディネータの姫野三樹氏は、「経営理念に沿って、働き方改革を進めつつ事業

2003年に創業した羽田富美江社長は、高齢者を施設に閉じ込めない、「地域のなかでの介護」「地域共生の街づくり」を目指した。

そのためには、さくらホームでは、通常のケアマニュアル以上の情報を共有している。

「スタッフも多様な働き方をしていますので、誰が訪問しても

瀬戸内海の景勝地の一つである広島県福山市の鞆の浦は、「歴史そのまま」の風情ある街並みが広がり、映画やドラマの舞台にもなっている。住民の約半数は高齢者だが、街のシンボル・常夜灯近くではベンチで懇談する元気な高齢者の姿が見られた。

介護サービスの提供に際し、さくらホームが大切にしているのは「その人らしさ」である。

経営陣の一人、羽田知世氏は次のように説明する。

「趣味や昔されていたことなど、その方の人生を皆で理解して、より良いかわり方を探しています」

街と一体化し、自宅のようにくつろげる場所
(さくらホーム提供)



< 地域とともに > 前進へのIT活用

事例②



社会福祉士
主任ケアマネージャー 石川裕子氏 (写真左)
マネジメント担当 作業療法士 羽田知世氏 (右)



築300年の商家を改装した鞆の浦・さくらホームは創業の地でもある。グループホーム、デイサービスなどを提供

その人らしさを皆が大切に 地域に溶け込み共生する介護

広島県福山市 介護業 鞆の浦・さくらホーム (有限会社親和)

会社概要

有限会社親和

広島県福山市鞆町鞆552番地

●代表者：代表取締役社長

羽田富美江氏

●設立：2003年

●従業員数：約70人

●事業内容：介護サービス(グループホーム、デイサービス、小規模多機能サービス、居宅介護支援事業)、障がい者支援サービス、宿泊業

●URL：
<http://www.tomo.sakurahome.net/>

主任ケアマネージャーの石川裕子氏は現場の様子をこう話す。

しかし、小規模多機能ホーム事業だけでも、月にのべ1300回の訪問がある。

情報量が増えるにつれ、共有方法が悩みとなった。

Excelのファイルをクラウドで共有していたが、運用は限界に近づいていた。介護向けのITツールを探すも、目的に沿うものが見つからない。単純な効率化ではなく、サービスの質向上を効率的に行う情報共有システムが欲しかったからだ。

一緒に成長するシステムで 効率的な情報共有を

そんな時、携帯電話ショップの紹介で出会ったのが、自身も介護事業を手掛けるNORTH HAND

記録を見て適切な対応ができるよう心がけています。現場の地域の方から聞いたお話なども大切にしています」



お勧めの一番のポイントは、大容量インクカートリッジ搭載

在宅ワークが増えるにつれて、プリンターが急増したものの一つが仕事をしていると資料や文書などを印刷したりスキヤンしたりなど必要なことがでくる。在宅ワーク中に困ることがないよう、ファクスなどの機能もあると、さらに便利だ。こうした用途にお勧めしたいのが、ブラザーのA4ファクス付複合機「MFC-J1500N」である。

在宅ワークでほしいプリンターとは？ 使い勝手に優れ、仕事の手を止めないものを

在宅ワークが増えるにつれて、プリンターが急増したものの一つが仕事をしていると資料や文書などを印刷したりスキヤンしたりなど必要なことがでくる。在宅ワーク中に困ることがないよう、ファクスなどの機能もあると、さらに便利だ。こうした用途にお勧めしたいのが、ブラザーのA4ファクス付複合機「MFC-J1500N」である。

モデルの「ファーストタンク」であること。家庭で使うにあたり気になるのはコスト面。「ファーストタンク」なら1枚当たりのインクコストは、A4モノクロ文書が約0.7円、A4カラー文書が約3.7円とコストをしっかりと抑えることができる。仕事でもプライベートでも使用して印刷枚数が多くなるという方も安心だ。また、インク切れが頻繁にあると仕事で中断し業務効率が低下するが、「ファーストタンク」は1回のインク交換で、A4モノクロ文書なら約6000枚、A4カラー文書なら約5000枚の印刷が可能なので、インク交換の手間も大幅に減る。さらに、もし仕事中にインクカートリッジが空になっても、その時点から約200枚印刷を可能とするサブタンクを搭載しているの、急なインク切れにも安心だ。そして「ファーストタンク」のインクは、交換が簡単なカートリッジタイプ。本体前面からワ



➡ これ1台で、仕事でも家庭でも、お得に便利に使える

※1：印刷コスト/印刷枚数算出に使用したインクカートリッジはLC3135BK/C/M/Y。測定条件はブラザーホームページをご参照ください（ファーストタンクモデルの同梱インクはLC3133BK/C/M/Yのスターターインクカートリッジです）。
※2：ISO/IEC 24711 準拠の目安値。使用状況により異なります。
※3：受信はWindowsのみの機能です。

「新しい日常」へのITツール紹介

経営戦略としての テレワーク・クラウド

緊急対策として要請された「テレワーク」を企業の業績向上に役立てたい。
そのためには、IT環境の整備が必要だ。
クラウドサービスや在宅勤務の実施に役立つものを整理した。

オフィスワークが主体の企業は、コロナ禍における通勤混雑緩和や、従業員同士の接触を減らすため、ネットを介して自宅など会社以外の場所で仕事を進める「テレワーク」の実施が要請された。緊急事態宣言解除後も、引き続きテレワークや、時差出勤が求められている。

テレワークに関しても要請を受けたことがきっかけであれど戦略的に活用して、働きやすさや生産性の向上を図りたい。

人口減少社会を迎えるいま、多様な人材に力を発揮してもらうためには、時間や場所の制約が減るテレワークが有効に作用するからだ。

デジタル化を進め クラウドサービスを活用

テレワークの実施にあたっては、周囲に情報漏洩しない空間において、ネット環境とパソコンなどハードウェアを整える。

最近では、業務別（経理、受注処理、設計など）、用途別（ファイル共有、会議など）にネット上でソフトウェアを提供するクラウド対

テレワークのイメージ



セス」という方法もある。

いずれの方式でも、社内の情報がデジタル化されていないと、離れた場所でスムーズに業務を進めることは難しい。

紙の書類を机の上に積まず、スキャナーで読み取ってPDF形式にしたり、ファクスで届いた申込書はOCRを用いてテキストデータにするなど工夫が必要だ。

一方、皆が一堂に会す機会が減るゆえの課題もある。

会社で「パソコンが動かなくなった」「ソフトの使い方がわからない」といったときは、情報システム担当者や周りの人に聞くことができた。一人で仕事をする在宅勤務では、トラブル時の対応が難しく、長い時間仕事を止めざるを得ないこともある。

こうしたケースを想定し、テレワークも含めたIT活用の相談サービスも実施されているので、うまく活用したい。

すべてを一気に行わずとも、一つの部署から、直行直帰の対応からなど、ステップを踏むのもお勧めである。

お問い合わせ先

brother

ブラザー販売株式会社
コールセンター

TEL : 0570-061016

URL <https://www.brother.co.jp/>

全国が対象です

NTT東日本がテレワークの導入・運用をまるごとサポート

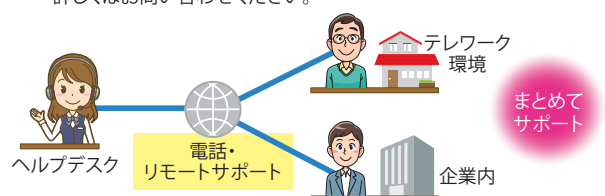
1 ソフトウェアの使い方から テレワークのトラブル切り分けまで

「ITサポート&セキュリティ スタンダードあんしんプラン」

ヘルプデスクが
電話&リモートサポート
ソフトウェアの
操作や設定の相談
トラブル発生時
の相談

テレワーク環境を含めたITの利用・運用を支援

- テレワークで利用するweb会議サービスやパソコン・インターネットの操作・設定方法をヘルプデスクでサポート
- トラブル発生時にも、リモート操作で分かりやすくサポート
※プランにより、利用上限回数/月が異なります。
詳しくはお問い合わせください。



- ITサポート&セキュリティのご利用には、フレッツ光などのインターネット接続サービスおよびプロバイダとの契約が必要です。
- リモートサポートには、リモートサポートツールのインストールが必要です。なお、お客さまのインターネットご利用環境によっては遠隔操作ができない場合があります。詳しくはお問い合わせください。
- ITサポート&セキュリティは、メーカー、ソフトウェアハウス及びサービス提供事業者が提供する正規サポートを代行するものではありません。

IT活用のめんどろなことは任せ、本業に専念!

2 テレワーク導入も業務ソフトも ニーズに合わせて提供!

<例>

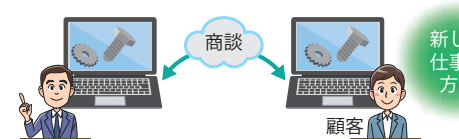
<情報セキュリティの高いテレワークを>

- データをクラウドに保管する「データレスPC」や、関連ツールのレンタル提供
- 自宅パソコンから社内ネットワークに接続するリモートアクセス
- ウイルス対策ツール など



<経営力を高めるソフトウェア>

- インターネットを介した営業活動をサポート(「bellFace」「Comme@CS」)
- 勤怠管理の効率化(「KING OF TIME for おまかせはたラクサポート」)
- 印鑑を利用する業務の電子化推進(「CLOUDSIGN(弁護士ドットコム社提供)」)



ワーク環境までサポートする。

テレワーク環境を一括提供 業務に役立つソフトも

テレワーク導入にあたっては、ネットワークや機器、ソフトウェアの整備が必要だ。この点もNTT東日本が一括で提供し、利便性を高めている。

テレワーク環境では、データをパソコンに残さない「データレスPC」やセキュリティ対策などが挙げられる。

ソフトウェアでは、業務に役立つ各種クラウドサービスを取り扱っている。

その例として、オンライン営業ツールの「bellFace」(ベルフェイス社提供)や「Comme@CS」(NTTアドバンステクノロジ社提供)が挙げられる。これらのサービスは、専用アプリが不要で、電話とWebブラウザの組み合わせでも簡単にオンライン営業/商談が行えるもの。資料や画面の共有をはじめとする充実した機能を備え、効率的で成果の出せる営業活動を可能にする。

お問い合わせ先



TEL : 0120-765-000

受付時間 : 平日9:00~17:00
(年末年始を除く)

URL : https://business.ntt-east.co.jp/content/telework_start/

K20-01270 [2008-2011]

<PR>

「移動を減らす」「対面する機会を減らす」——新型コロナウイルスの影響を受け、ビジネスの進め方も変化が求められている。テレワークの実施により人と人の接触を減らしつつ業務を継続するのがその筆頭だ。バックオフィス系に限らず、営業業務においてもオンラインで提案資料を共有し、顧客と遠隔で商談を進める新しい営業手法が広がりつつあり、業績アップに結び付けている企業が出ているという。

こうした「ニューノーマルな働き方」の実現にあたっては、在宅側のインターネット環境構築や情報セキュリティ対策、ソフトウェアの導入など、ITの利用・運用業務が発生する。

企業内から在宅側までITの利用・運用を支援

テレワーク環境も含めたIT

の整備・運用管理は、情報システム担当者にとって荷が重いだろう。「社内にわかる人がいない」ことが導入の壁になることも多々ある。

そこでNTT東日本では、新しい働き方をバックアップすべく、テレワーク環境づくりやIT活用時のトラブル対応、生産性向上につながるクラウド型業務ソフトの提供などオフィス業務を丸ごとサポートしている。

まず注目したいのは、パワーアップした「ITサポート&セキュリティ」である。

ネットワークやIT機器、ソフトウェアの設定や操作、トラブル時のヘルプデスクなどをコールセンターにて対応。新メニュー(9月7日提供開始)の「スタンダードあんしんプラン」では在宅等のテレワーク利用までカバーしている。

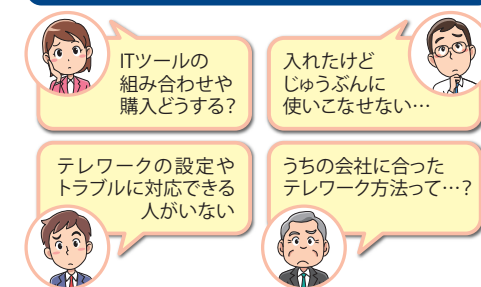
ソフトウェアの操作・設定の

相談は電話や遠隔画面操作にて。また、障害発生時は遠隔での故障原因特定に対応する(契約拠点には訪問による故障原因特定も)。テレワーク中に「ネットにつながらなくなった」などのトラブルが起きても、原因の切り分けなどを相談できるのだ。

「スタンダードあんしんプラン1」の場合、インターネット接続環境があれば月額利用料が3,850円(税込)／契約でテレ



テレワークや新しいICT活用の悩み



➡ NTT東日本が企業をサポートします!
問い合わせはテレワーク相談窓口まで!

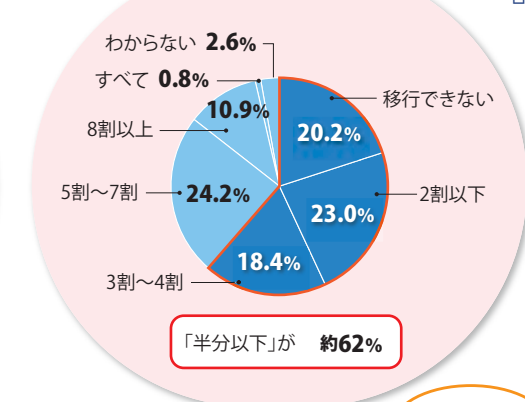
「ニューノーマルな働き方」に踏み出し成果をあげる テレワーク環境の上手な導入・運用方法とは

在宅勤務を阻む4つの障壁を乗り越え テレ経理・テレ総務を実現しよう

＜アンケート概要＞

*OBCが実施した「新型コロナウイルス感染対策としての在宅勤務/テレワーク実態調査」
●実施期間：2020年4月27日～5月1日
●対象：奉行シリーズのユーザー企業
●回答数：1001件

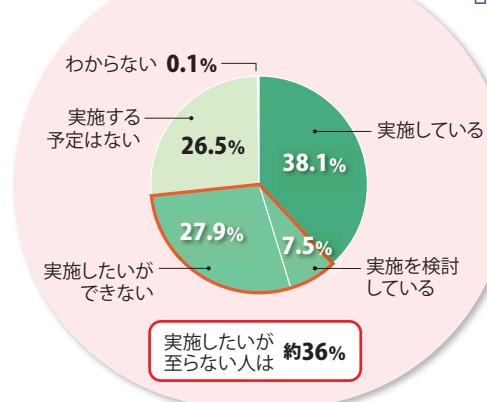
Q『現在行っている業務をどのくらい在宅勤務/テレワークに移行できた、もしくは、移行できると思いますか？』



『アンケートでわかった 在宅勤務/テレワークの現状』

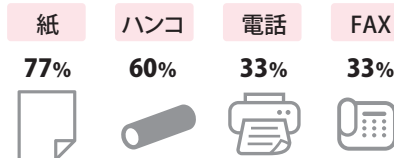
在宅勤務/テレワークの実際は？

Q『新型コロナウイルス感染対策として、あなたは在宅勤務/テレワークを実施していますか？』



導入の「壁」となるのは、
個人情報の取り扱い に加え

*Q「在宅勤務/テレワークで業務する上で、課題になっている。もしくは課題になると思うものを教えてください」に対する回答。複数回答可



新型コロナウイルス感染予防を目的に急遽テレワークを実践したところ、生産性向上に確かな手応えを感じているという企業も少なくない。
しかしながら、まだまだ導入率が大きく伸びるまでにはいっていない。その要因は何だろうか。

紙とハンコ、FAX・電話が出社を余儀なくさせる

中小企業の実態を探るべく、オービックビジネスコンサルタント（OBC）では、新型コロナウイルス感染対策としての在宅勤務/テレワークの実施状況や導入課題について、同社のユーザー企業（経理、総務、販売管理部門など）にアンケート調査を行った。

その結果から、「実施したい意思はあるが、十分行えていない」現実が見えてきた。

**「できない」と決めつけず
「何ができるか」を知ろう**

4つの障壁をどう乗り越える

か——。OBCでは、会計や給与、販売管理など、バックオフィス業務のクラウド化による在宅勤務/テレワークを推進。「奉行クラウド」を活用した「テレ経理」「テレ総務」の提案に力を入れている。

さらに、現場の課題に基づき、税理士や社会保険労務士のアドバイスをもとに対処方法も提示した。

具体的には、紙のデジタル化、FAXのデータ化、電子取引や電子印鑑の採用、BYOD（私用モバイル端末の業務利用）など。

慣習や先入観にとらわれて「できない」と決めつけるのではなく、「何ができるか」を正しく理解し、最低限の業務ルールでできるところからでも在宅勤務/テレワークを取り入れていくのが肝要だ。

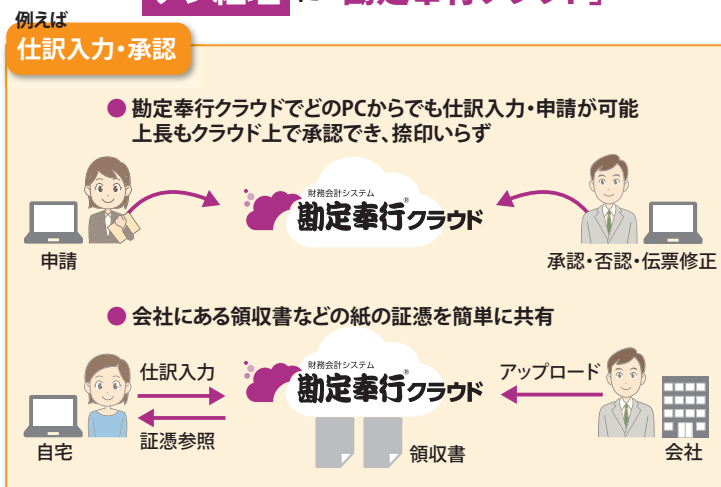
オフィスと変わらぬ作業が「奉行クラウド」で可能に

総務・経理部門における在宅勤務/テレワーク実現には、次のような業務の障壁を乗り越えたい。

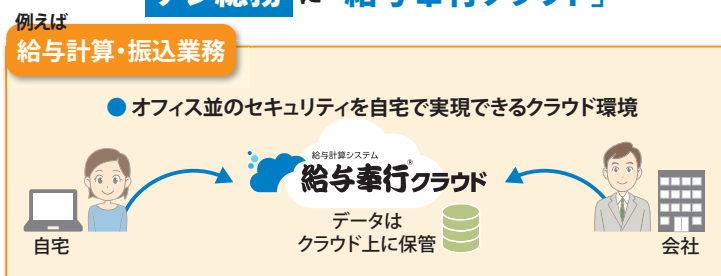
- ・経理（および販売管理）
- ・振込・入金確認」「請求書発行」「請求書や仕訳伝票などの押印」
- ・総務人事

「奉行クラウド」なら経理・総務の
在宅勤務/テレワークもカンタンに実現

テレ経理 に「勘定奉行クラウド」



テレ総務 に「給与奉行クラウド」



いずれも、顧問税理士や社会保険労務士など
専門家に付与できる1ライセンスを添付。
自宅からもリアルタイムに情報共有してアドバイスをもらえる

テレ経理 テレ総務 ができる会社！

お問い合わせ先

OBC

株式会社オービック
ビジネスコンサルタント

●ご相談窓口

0120-121-250

奉行クラウド 検索

在宅勤務/テレワークを早急に実践する足がかりとして、「奉行クラウド」の活用で障壁は意外に簡単に乗り越えられるというのを知ってほしい。

「給与・賞与計算」「振込・納付」「給与・賞与明細書の配布」クラウド上で各種データの共有や作業の分担・連携が可能な「奉行クラウド」シリーズ（「勘定奉行クラウド」「給与奉行クラウド」「商蔵奉行クラウド」など）なら、こうした業務を自宅でも、オフィスと同様の操作で進めることができる。

紙・FAXの電子化や電子印鑑など外部ベンダーの多彩なソリューション製品との連携も可能だ。

バスより柔軟、タクシーより安価 高齢者の活動範囲を広げる仕掛けとは？



肝付町 町長 永野和行氏

「情報」を戦略的に武器にし、 選ばれる自治体に

利用者がいるときだけ、乗降予約がある場所だけを最短ルートで結び、かつ乗合であるため運行効率が良い。利用者側もおよその到着予定がわかるので長いことバス停で待つ不安が軽減される。

自治体に限らず、ショッピングセンターの送迎や観光など様々な用途で利用できる。肝付町では一度に乗車する人数を考慮し、タクシー車で運行。さらに自宅近くでの乗降を可能にする柔軟さを備えた。

住民の要望を受け本稼働地域の新しい「足」に

実証実験のアンケートでは継続を求める声が多く、2019年9月に正式なサービス化に踏み切った。現在、町内2地域に2台ずつを配置。冒頭の例は週3回日中に運行する高山地域の様子である。

地域の「足」として住民はもちろん、町外に住んでいる高齢者の家族からも評価を受けている。1回あたりの利用料は200円、利用者がドライバーに直



(高山地区の案内)

「肝付町おでかけタクシー」登録者は自宅付近で乗降が可能。立ち寄りが多そうな場所にきめ細かく乗降スポットが設定されている。「二本松バス停」にて



スーパーマーケット近くの乗降スポットに「肝付町おでかけタクシー」(以下「おでかけタクシー」)がやってきた。

予約を入れた女性は、「今日はたくさん買物をしましたが、安心して帰れます」と明るい表情で乗り込んだ。

次に到着した車からは高齢の母と娘が下車。「私は自動車の運転免許を持っておらず、実家に帰っても母の送り迎えができません。必要なときにこうして病院からスーパーまで移動できるなんて、本当にありがたいです」と感謝の言葉を口にした。

「おでかけタクシー」は、住民の予約に応じて動く独自の交通システムなのだ。

その時の乗降希望に沿いAIが最適経路を予測

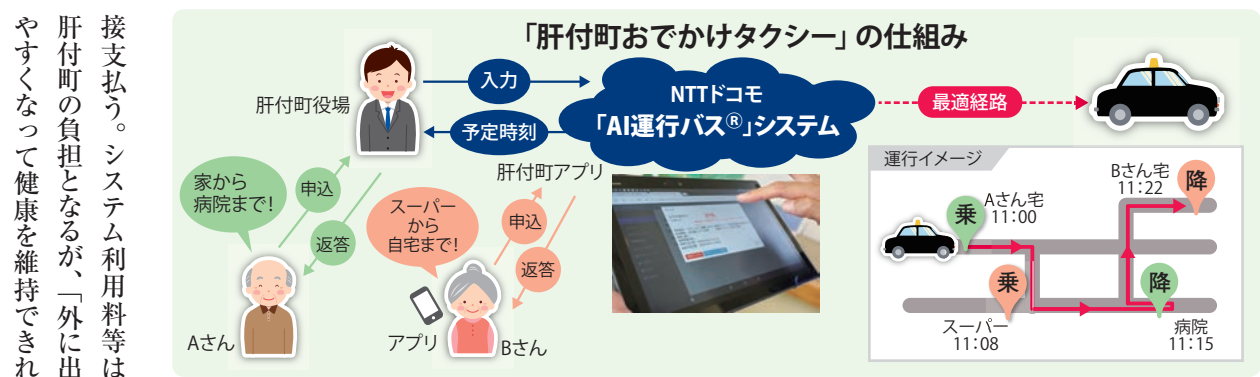
鹿児島県肝付町は大隅半島の

東部に位置する「やぶさめとロケットの町」。生活の足は自動車だが、高齢化が進むにつれ「移動」の課題が浮き彫りになってきた。

肝付町町長の永野和行氏は次のように打ち明ける。

「高齢者の方には積極的に町に出て活動し、健康に暮らしてほしいと願っています。しかし高齢者の運転事故も見逃せない状況になりました。免許を返納した後も、安心して気軽に町を移動できる公共交通はないかと検討を続けていました」

永野町長は、新しい発想・企画を取り入れる姿勢を持ち、人口減少の危機感からITにも高い関心を寄せている。「情報の過疎地にならず、情報を戦略的な武器にしたい」と、総務省から出向者を招いて人材を確保するほどだ。



ば、健康保険の利用が抑えられたり町全体としてプラスになる」と永野町長は決断の背景を説明する。

乗車には事前登録が必要で、利用時は専用アプリか電話で申し込む。

平日の10時すぎに訪れた町役場では、「おでかけタクシー」の申し込み電話が頻繁に鳴り、職員が出発地と行先をシステムに入力して到着予測時間を利用者に返答していた。

現在、利用登録者は約800人、高山エリアでは月にのべ400回の利用がある。車の運転ができなくても行動範囲が狭まらない——地域交通の充実、高齢化が進むなかで、暮らしやすい町の条件の一つとなる。

永野町長は今後の展開について、次のように語った。

「キャッシュレス化や近隣の町と連携した広域乗り入れなども検証しながら進めていきたい。完璧を求めすぎて躊躇することなく、日々の変化に柔軟に対応できる力を持ち、町の活性化を図っていきます」



自治体概要	
肝付町	
●役場住所:	鹿児島県肝付町新富98
●人口:	約15,000人
●面積:	308.10平方キロメートル

働く皆さま 準備はOK?



すべての業務とつながるひろがる
奉行クラウド

IT経営マガジン **COMPASS**

2020年秋号
第18巻3号
2020年8月31日発行(非売品)

◆発行人
土岡正純

◆編集人
石原由美子

◆企画・編集
大谷聖治
松森陽子

◆イラスト
朝倉千夏
金巻龍平

◆デザイン・制作
株式会社リッククリエイト
小幡一之

◆本文DTP制作・印刷・製本
社光舎印刷株式会社

◆発行所
株式会社リックテレコム
〒113-0034
東京都文京区湯島3-7-7

●お問い合わせ、読者登録先
COMPASS編集企画室
TEL : 03-3834-8059
URL : <https://www.compass-it.jp/>

「COMPASS」について

**「COMPASS」は中堅・中小企業向けに使いやすい
製品・サービスを提供している企業のご協力により
発行しております。**

- 中小企業の方、1社1冊までは、無料でお読みいただけます(お手もとまでお届けします)。
 - 発行は年4回(2月、5月、8月、11月)です(都合により若干変動します)。
- ※セミナー利用等におけるまとまった部数(有料)にも対応させていただきます。

- 読者登録のお申し込みは、下記Webサイトで受け付けております。
送付先変更、送付中止はEメール(compass@ric.co.jp)までどうぞ

冊子「COMPASS」と「COMPASS ONLINE」について

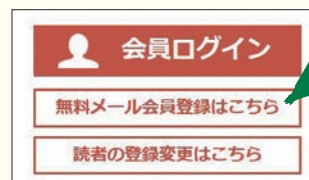
COMPASSの読者会員の種別には、

メール会員
(ONLINE版の情報をメールでお知らせ)

冊子読者会員

の2種類があります。冊子読者の皆様は自動的にメール会員になります。

<https://www.compass-it.jp/>



Webサイト右上にある、このボタンから
ご登録をお願いいたします。
まず初めにメール会員登録の画面が出ます。
中小企業の方は、その次の画面で
冊子版のご登録ができます。

Webから読者登録を!

COMPASSのFacebookページで情報発信中。
「いいね!」をどうぞ!

<https://www.facebook.com/compassnetwork/>

本誌記事の無断転用・転載を
禁じます。

[COMPASS] コンパスは羅針盤・指針を意味しています。本誌をIT導入の
指針としてご利用いただけることを目指しています



テレ経理・テレ総務は 奉行クラウド



株式会社 **オービックビジネスコンサルタント**

導入をご検討の
お客様専用ダイヤル

0120-121-250

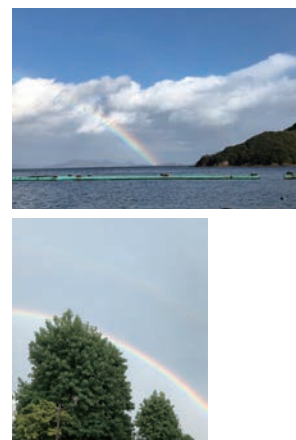
10:00~12:00 / 13:00~17:00
※土・日・祝日除く

奉行でテレワーク

検索



〈東京〉〈大阪〉〈名古屋〉〈札幌〉〈仙台〉
〈関東〉〈横浜〉〈静岡〉〈金沢〉〈広島〉〈福岡〉



鵜の浦の虹(上)、東京の虹(下)

事例紹介した鵜の浦のさくらホームさんに向かう
道中、海の上にきれいな虹が。映画の舞台にもなっ
ている鵜の浦ならではの、洒落たお出迎えでした。
そして8月。担当の羽田さんにネットで近況をお
伺いした日、駅を出るとそれまでの大雨がピタリと
やみ、東京の狭い空ながら、目の前に二重の虹が。羽
田さんはもう「虹の方」です(勝手にすみません)。
人との物理的な距離・非接触が求められてはい
ても、つながりやご縁は変わらず大切に、との啓
示かもしれません。皆で知恵を合わせ、乗り切っ
ていきましょう。

さる緊急事態宣言下、通っているテニススクー
ルは休校になり、公営のテニスコートなども閉鎖
されました。「少しは体を動かさないと」と自宅
で筋トレに励み、密を避けながらジョギングを続け
て2カ月余り。再開したスクールでの最初のレッ
スン(体(特に足)が動かないこと動かないこと
)。単なる運動とスポーツの違いを痛感しました。
プライベートでもビジネスでも、コロナの影響
によってしばらく遠ざかっていることがまだまだ
あります。自粛や制約を余儀なくされる日々はも
うしばらく続きそうですが、久しぶりなことの
機会が少しずつでも増えることを期待し、そのた
びに戸惑う自分の滑稽さを楽しみたいと思っています。

(大谷)

編集後記